

随想

大神姓佐伯氏の支族

会員 佐 脇 貫 一

(福岡市東区城浜団地)

大神姓緒方氏の支流諸氏については、大友興廢記に大友義鎮時代の国衆(緒方一族三十七家)の記載がある。それによると、緒方一族というのは、

- 佐伯・雄城・小原・田尻・下群・真玉・田吹・敷戸・小深田・木上・東家・長峰・由布・賀米・徳丸・堅田・夏足・都甲・秋岡・高城・上野・陣・阿南・安藤・枳原・森迫・植田・世利・芦刈・胡摩津留・稗田・小井手・大津留・深田・橋爪・神志那・奈須

以上三十七氏

の諸氏で、現在、緒方一族の蟠居していた大分・大野・海部(南北)各郡は、旧家としてその名跡を残している氏も少なくない。いま手許にある大神姓佐伯氏系図を鑑いてみると、大神緒方の支族には、

- 三田井・野尻・阿南・直入・城原・朽網・植田・大野・三重・松武・小原・大津留・武宮・橋爪・畠田・甲斐田・松尾・稗田・秋岡・田尻・田吹・入倉・敷戸・臼杵・田中・緒方・佐加・戸次・佐伯・高野・大塚・清田・加米・沼田

の三十四氏が記載されている。また佐伯氏の分かれに

- 堅田・賀米・大津留・高畑・田北・宮脇・野々下・深田・細田・大内・中原・豊岡・長田・玉田

などの諸氏がある。

次に豊後国國田帳にある大神姓諸氏は

- 大野・堅田・都甲・真玉・八坂・松尾・植田・賀米・大津留・橋爪・敷戸・佐伯

の十四氏で、いずれも弘安年間(一二七八-一二八六)における大友氏旗下の地頭御家人である。このほか大神一族といわれている高千穂三田井氏には、

- 三田井・大神・河内・田原・岩戸・芝原・向山・興石

など支族があり、また大神緒方の族ではあるが、系統が審らげてないものに

- 御手洗・佐保・鞆丸・杉谷・広米

さて、さる六月二十七日、文跡榊牟礼城址碑の建碑除幕式にあたり、臼杵市在住の木梨惟貞氏が参列されて、

佐伯氏の末裔と伝える同氏の系譜を提示されたという。また佐伯氏の縁故者である高知市の細木氏は、さきごろ

羽柴先生を訪れ、佐伯氏と細木氏の関係について話され、祖先の故地を訪れたことを喜ばれたという。

佐伯氏縁故の旧家に生まれ、少年時代しばしば榊牟礼山下の故地に遊んだ私は、老境に入って佐伯を去り、筑

前博多の地に住んでいるが、暇裏に往來するものは、いつも故山の姿であり、私に歴史を学ぶことを教えてくれた故人の傍である。このほど、木梨氏と細木氏が佐伯を

訪れたことを羽柴先生から聞き、佐伯氏の支族と末裔について、私なりに考察をして見た。

前掲の大神姓佐伯氏の支族には、木梨氏はまうたく見

えないが、細木氏は緒方系譜考に「推定(佐伯氏十四代)の

次子に惟滋（これとし）があり、「土佐に住し細木氏と稱す」と注記されている。この細木氏は惟定の子惟滋が、伊予から土佐の高岡郡新居郷に移り住み、緒方岩右衛門と稱したが、後佐伯と改め、さらに細木と書き改めて「木そぎ」と読み替えたものという。

木梨氏については、羽柴先生も系譜では各支族いずれも住居した土地の名を氏（苗字）にしているから、木梨もおそらく地名であろうといわれているが、私も同感である。しかし木梨とは全く珍らしい地名で、大分県にはないようである。私の調べた範囲では、ただ一か所、備後国御調郡（現在は広島県尾道市に属する）にあるばかり、そこは豪族木梨氏の発祥地である。

この木梨氏は桓武平氏村原氏流で、村原光平の後裔平が木梨に住み、代々木梨氏を称し、天文中毛利氏の被官になった。緒方系譜考によると、惟定の弟は惟寛があり、帯刀または仁兵衛と称して毛利輝元に仕えたが、後辞して備中におもむき、足守（岡山県）で帰農した。この惟寛は緒方洪庵の祖先になる人物だが、安芸・備後・備中と流浪しており、毛利氏に仕えていることから、同じく毛利氏に仕えた木梨氏と、何らかの関係が生じたのではなからうか。

大神姓佐伯氏系図を見ると、佐伯氏六代惟宗の弟は惟長があり、豊岡修理亮と記してある。そして惟長の姉妹のうち二人が、土持氏と伊東氏に嫁している。

ところで、伊東氏の歴史を書いてある「日向記」のなかには、日向守護伊東六郎左衛門尉祐持は貞和四年（一三四八）六月、足利幕府によって檢非違使に任ぜられ上洛したが、その途中、妻の父（系図では兄）におられる豊後佐伯莊の豊岡修理亮惟長を、その館に訪れたとある。この記

事からみると、惟長は佐伯一族中の権勢家のようにある。佐伯氏は七代惟仲（惟長の甥）のときで、惟仲は伊東祐持の与党として、軒弁兼重と戦っている。

それでは、惟永の館という豊岡とはどこであろう。當時佐伯氏は堅田郷高城に居館を営んでいたといわれるから、堅田郷のうちだらうか。それとも本莊地内の下野村、上岡村付近だらうか。豊岡に比べられる地名は上岡である。その地域内に櫻野の五輪塔があることを考えると、惟長一族の館はこの辺ではなかつたかと思う。（おわり）

【紹介】

緒方維義公の供養碑の建立に除幕のこと

緒方維義（惟義）公については、郷土史を志す佐伯人なら、誰もが知っている。「佐伯史談」誌上にも度々その名が出るし、佐伯にもあちこち緒方姓があり、会員の中にもあるほど、佐伯地方ではゆかり深い方である。

さて、昨年一度ご来訪さうけたことのある福岡県香春町の緒方かしえさんとおっしやる方から、先達て次のようなご案内さうけた。

（前略）この度元暦の昔武名を馳せました元祖緒方維義の供養碑を、豊前の一門と相談致し、また地元の前長さん外多数の有志の方々の協力により発祥の地に建立いたし、左記により除幕式と年祭を挙行することになりました。（中略）

日時 十一月二十七日（土曜日）午後一併

場所 大分県大野郡緒方町中央公民館（兼倉）

豊前緒方村宗家 緒方安平

子 緒方カシエ

私は当日参列し、緒方宗家の美譽に学ぶ、その状況を後日お伝え申したいと考えている（羽柴）